

<p>上上品</p> <p>唐画 僧明兆 仏像</p> <p>和画</p>	<p>上中品</p> <p>唐画 雪舟 山水 雪舟、元信の画、世、称して和画と為すは誤りなり。是れ乃ち西土北宗の正伝なり。故に今、改め唐画と為す。紙本合作は此の品に列すべし。絹上の細密之を喜ぶけるに於て、今時の俗、甚だ笑ふべし</p> <p>大雅堂 山水 是、逸致を以て勝る者なり。諸家の筆意を鎔化して一家法と為し、和習初めて起る。故に称して和画と為す</p> <p>和画 探幽齋 才毫を以て勝る者なり。諸家の筆意を鎔化して一家法と為し、和習初めて起る。故に称して和画と為す</p>	<p>上下品</p> <p>唐画 元信 是れ尤も能画を為す。然ども俗習を脱する能はず。画論に曰く、俗病尤も大と為す。故に降して此の品に列す</p> <p>柳淇園 花鳥墨竹 宮筠圃 墨竹</p> <p>和画 宗達 光琳</p>			
<p>中上品</p> <p>唐画 玉蟾 人物禽獸 彰甫 山水 逸氣を以て勝る者なり。絹上に於て作者尤も勝ると為す</p> <p>玉宛子 蘭</p> <p>和画 常信 英一蝶 品格高からずと雖も、又妙処有り著色法の精絶、喜ぶべし。只、生韻無きを恨みと為す</p> <p>光起 松花堂</p>	<p>中中品</p> <p>唐画 心越 禅師 蕪村 山水人物 俳氣有るを以て恨みと為す 八仙堂 山水 雅致有り 石圃 山水 雅趣有り 熊大 花鳥 是れ能画なり。俗氣有り 鵬 墨竹 氣象を以て勝る</p> <p>和画 友立 松甫 逸致有り 光成</p>	<p>中下品</p> <p>唐画 寒葉齋 花鳥 大雅堂 人物蘭竹 八仙堂 人物花鳥</p> <p>和画 宮本武蔵 氣象を以て勝る者なり 太郎菴 人物 雪鼎</p>			
<p>下上品</p> <p>唐画 雪溪 山水 鶴亭 寒葉齋 若冲</p> <p>和画 蕭白 是れ己の才に任せ邪道に陥るなり。其の品格、野を絶す 応挙 人物畜獸 筆跡甜美にして骨無し 住吉慶舟</p>	<p>下中品</p> <p>唐画 范古 蘭竹 宋紫石 花鳥 玉瀾女</p> <p>和画 周信 探信 瓊甫</p>	<p>下下品</p> <p>唐画 五岳 山水 玉蟾 范古 醉月</p> <p>和画 守景 応挙 山水</p>			
<p>文人画 玉腕子 真相 石圃 立圃 大雅園 松花堂 彰甫 萩大 宮筠圃 八仙堂 柳里 恭圃 心越 即非 古 礪</p>	<p>能画にして俗氣無き者 兆典子 玉蟾 雪舟 蕪村 探幽 寒葉齋 宗達 鶴太 光琳 若冲 常信 郎菴 光起 友松 一蝶</p>	<p>邪 蕭白</p>	<p>俗 元敬 信輔 范慶 古舟 熊五 斐岳 啓書 記信 醉 月 松 崇</p>	<p>甜 応挙 拳石 宋紫松 花堂</p>	<p>頼 此の病、行家法と称する者殊に多し 常信 光起 周信</p>

右、古今の画品を定むること此の如し。然れども賞鑑二つ、好む所各々同じからず。或は和画を偏好する者有り。或は唐画を偏喜する者有り。或は文人家の癖有り。或は茶道家の癖有り。好む所各々同じからずと雖も、画家の優劣に於ては、則ち一つなり。既に癖有る者は真に画を好む者に非ざるなり。余は是れを論評して直ちに其の画を論ずるのみ。而して高致を以て勝る者有り、逸氣を以て勝る者有り、能画を以て勝る者有り、才毫を以て勝る者有り。皆之れを論じ、優劣を定む。此の外、名家少からずと雖も、予の目中未だ觀ざる所は録さず。以て後の君子を俟たん。

享和元年辛酉冬十二月廿一日 尾張 竹洞成昌識 (1802)